大東市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

【小学校】

- ・令和2年度は3校で学校司書を配置
- ・月2回、市立図書館より司書を派遣し、貸出や蔵書整理などをサポートしている。

【中学校】

- ・令和2年度は3校で学校司書を配置

【小・中学校】

- ・学校司書連絡会を開催し、各校の取組みの交流や市立図書館司書も参加していただくことで、市立図書館と学校図書館との連携も図っている。
- ・学校図書館教育研修として、「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」の公開授業の参観と討議会への参加を位置付け、市立図書館司書等や学校司書との交流も行った。
- ・学校ごとに市より図書購入費が配当される。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

【小学校】

- ・12校中3校で、学校司書を配置し、貸出や授業補助などを行っている。

【中学校】

- ・8校中4校で、学校司書や非常勤講師などの担当者がいて貸出や授業補助などを行っている。

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

【小・中学校】

- *新型コロナウイルス感染拡大防止のために、可能な限りの対策を講じて、貸出業務からスタートしている。

対策の例

- ・図書館への入室の前後に手指消毒や手洗いの徹底
- ・図書館への入室人数の制限
- ・貸出手続きについては、カウンター前には、間隔をあけてスムーズに並ぶことができるように視覚的な掲示物を準備
- ・返却された図書はすぐに書棚へ戻さず、2、3日別の場所に置き、消毒をして書棚に戻す
- ・図書館内の机や椅子の数を少なくし、すべて前を向く形にレイアウトを変更
- ・分散登校や本格登校となり、新型コロナウイルス感染症対策も含めた児童生徒向けのオリエンテーションを実施

【小学校】

- ・「学校図書館まなびかたノート」の活用
- ・地域の方や保護者ボランティアによる読み聞かせ
- ・「としょだより」で学年に応じた推薦図書を明記することで、児童への読書推進と「家読（うちどく）」という親子読書の取組みにつながった。
- ・「先生のおすすめの本」のコーナーを設け、紹介文とともに展示している。読書意欲の向上につながっている。
- ・リクエストカード（児童用と教員用）作成により

図書への興味関心を促す

- ・国語科の物語教材で、同じ作者の作品を集め、並行読書を行っている。
- ・「読書通帳」を作成し、児童に配付している。
- ・市立図書館と連携し、「図書館を使った調べるコンクール」にむけて、調べ学習についての出前授業を実施している。

【中学校】

- ・学年ごとに必読図書をあげ読書を勧めている。
- ・毎朝15分間の「朝の読書」の時間を設定し、落ち着いた1日のスタートにつなげている。
- ・生徒おすすめの図書コーナーを設置し、生徒の図書への興味を促している。
- ・学年、または図書委員会を中心としてビブリオバトルを開催している。
- ・「図書館通信」で新着本やおすすめの本を紹介。
- ・定期的に新着本の展示会を行っている。
- ・読書通帳を作成し、生徒に配付している。
- ・感染症に関する書籍紹介と展示
- ・安心して過ごせる居場所としての役割の充実を図っている。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

【小・中学校】学校図書館システム「探調DX」

5. 各市町村の学校図書館に関して特徴的なこと

【小・中学校】

- ・平成28年度より、市教委と市立図書館が連携をして「図書館を使った調べるコンクール」を実施している。令和元年度は小・中学校あわせて705作品の応募があった。

6. コロナウイルス感染の対策について

<行政の支援内容>

- ・消毒用アルコールやマスク、非接触型体温計等の配付

<学校独自の対策>

- ・返却された図書については、72時間置いた後、消毒する。
- ・感染拡大防止対策として、図書館内の人数を制限、貸出手続きは、間隔をあけて並ぶ、机と椅子の配置で対面にならないようにする、アクリル板の設置、手指消毒の徹底等をしている。

7. タブレット導入について

- ・3月上旬で全学年への導入が完了するが、図書館教育と連携した取組みについては今後の課題と考えている。

交野市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

交野市小中一貫学園構想事業及びこども未来サポート事業として、学校図書館の活用支援のための学びあいサポーターが各校に派遣されている

2. 各市町村の学校図書館関係の組織の形態と活動について

交野市学校図書館協議会（役員会・運営委員会）
役員選出・活動計画等
学校図書館実態調査
大阪府青少年読書感想文コンクール交野地区審査情報交換
本年度のまとめ

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例について

図書ボランティア（保護者・地域等）を組織し、学校図書館の環境整備、図書の貸出・返却、読み聞かせなどを行っている。

学びあいサポーターをコーディネーターとして、市図書館との連携が進み、調べ学習では教員のオーダーを受け、市図書館の蔵書を活用している。

「子どもに読ませたい100冊の取組（読書マラソン）」、「ミニビブリオバトル」を行うなど、読書活動の充実を図っている。

各小学校では、読み聞かせの活動として、「お話し会（地域ボランティア）」、「読書会（市図書館司書）」などを行っている。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

平成25年度よりコンピュータ化がスタートし、市内小・中学校全14校がコンピュータによる蔵書管理をしている。

5. 各市町村の学校図書館に関して、特徴的なことがあれば

言語活用能力向上のために、各教科、領域の特性に応じて学校図書館を活用し、①情報を収集したり取り出したりする力、②目的に応じて必要な情報を見つけ出したり比較したり、関連づけたりする力、③得た情報を基に、物事を推し量ったり予想したりする力、④根拠を明確にしながら論理的に思考する力など4つの力を中心に育成することをめざして、市より「学びあいサポーター」が派遣されている。

放課後に学校図書館を開館し、学校図書館を子どもたちの「こころ」と「からだ」の居場所とな

ること、また、家庭学習が困難な子どもたちの学習をする場として学校図書館を活用し、家庭学習の習慣づくり支援を行うとともに、学力保障の一助となることをめざして、市より「学びあいサポーター」が派遣されている。

市が「本の森プロジェクト」として、幼児期の読書習慣、学校図書館の活用、子どもたちの成長に応じた読書指導のほか、地域の図書ボランティア・各種団体による絵本を通じての読書活動の活性化など、市民参加型事業を行う。

6. コロナウイルス感染の対策について

<行政の支援内容>

空気清浄機の設置。

<学校独自の対策>

学校図書館使用前の手洗い指導。
入室前の検温及び消毒薬の使用。

7. タブレット導入について

本市では、小学校1年生から中学校3年生までの全児童生徒及び教職員対象に一人一台のタブレット端末が配布されている。学校図書館との連携は今後の検討課題である。

門真市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- ・学校図書館司書については、29年度より合計10名で、1人2校兼務し、市内小・中学校全校（20校）へ配置しています。
- ・学校図書館司書については、市教育委員会が2か月に1回連絡会を開催し、研修や情報交換等を行っています。また、市立図書館との連携も進めています。

2. 各市町村の学校図書館関係の組織の形態と活動について

市として学校図書館関係の組織は現在のところありません。

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・ビブリオバトルの開催
- ・学校司書が市内の各小中学校に向けて、学校図書館司書だよりを年4回発行
- ・本のPOPづくり（市立図書館と連携して）
- ・読書週間（学校司書による読み聞かせ・ブックトーク等）
- ・おすすめの本コーナーの設置（国語の単元と関連させて・平和学習・調べ学習等）
- ・学校司書が中心となり、夏期休業中に市立図書館において、イベントの開催

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

速見小学校と門真はすはな中学校の2校のみ、データ管理されています。使用しているソフトは、「探調ツール」です。MARCについては、市立図書館と合わせた形で「日版マーク」を使用しています。

5. 各市町村の学校図書館に関して特徴的なこと

- ・昨年度、全校へ学校図書館司書を配置したことにより、子どもたちの本に対する興味関心が高まるような書架の配置や室内装飾、選書、読み聞かせ等の工夫がされています。
- ・学校と市立図書館が連携し、市内の小中学校にて『えほんのひろば』を開催し、子どもたちの読書へのきっかけづくりをしています。
- ・門真はすはな中学校については、開校する段階から専門家による図書館づくりを行い、本市のモデル的な学校図書館になっています。

6. コロナウイルス感染の対策について

<行政の支援内容>

他県・他市の教育委員会が行っている支援内容と同等の支援をいただいております

<学校独自の対策>

他県・他市の学校が行っている対策と同等の対策をしております

7. タブレット導入について

4月より1人1台PCが入ります。それに向けて、現在1～3月市教委が整備工事等を実施中です。

枚方市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

小学校

- ・市内全中学校区に学校司書が配置され、小学校の学校図書館の充実のためサポートを受けている。
- ・枚方市中央図書館の学校図書館支援グループにより、学校司書の育成サポートや学校図書館の整備・活用等のサポートを受けている。
- ・公共図書館から図書の団体貸し出しを行っている。

中学校

- ・市内全中学校区（19中学校区）に学校司書を配置している。中学校での勤務を基本とし、小学校での勤務は校区ごとに決定している。
- ・公共図書館から図書の団体貸し出しを行っている。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

枚方市小学校図書館協議会

- ・年間1回、独自の研修会を実施。今年度は、コロナ禍のため中止
- ・大阪府青少年読書感想文コンクール、大阪府青少年読書感想画コンクール、地区審査等の実施。

枚方市中学校図書部会

- ・活動 年間2回
- 廃棄図書の選定
- 中学校の図書室の見学
- 各中学校の図書館業務に関する情報交換
- 公共図書館との連携事業

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・小中学校がバーコードでの貸し出し管理を行っている。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・小中学校全校において、全小中学校と公共図書館とでオンラインで蔵書閲覧が可能。

6. コロナウイルス感染の対策について

<行政の支援内容>

- ・図書館用ではないが、各学校へのアルコール消毒液の配布。

<学校独自の対策>

- ・生徒の動線を見直し、入口で手指消毒をするようにした。
- ・カウンターに透明ビニールシールドを設置した。
- ・返却された本は、消毒後、2～3日置いてから元の書架に戻す。

7. タブレット導入について

- ・タブレットが導入されたことによって、図書館を利用する生徒が減少した。
(調べものをする時に、タブレットの方が手軽にできる。昼休みは、図書館に来ないで教室でタブレットで検索をして過ごす生徒が増えた)

寝屋川市

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・「第2次寝屋川市子ども読書推進計画」を策定している
- ・学校司書配置（9人）
- ・学校図書館への新聞配備（2紙配備）
- ・図書購入費支給

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・学校図書館連絡会実施（年3回）
※新型コロナウイルス感染症の感染防止のため未実施

対象：学校司書

司書教諭（図書担当各校1名）

内容：情報交換、図書便りの共有
大阪府教育庁より「子どもの読書活動をすすめるために」（出前講座）の研修会実施

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

<小学校>

- ・ボランティアによる読み聞かせ
- ・「読書ノート」の取り組み
- ・読書習慣、朝の読書、おすすめ本
- ・教員のビブリオバトル
児童のビブリオバトル

<中学校>

- ・朝の読書活動（全中学校で実施）
- ・文化委員会でビブリオバトルを行う

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

小学校は、図書カードが4割、コンピュータでの管理が6割。

中学校は、図書カードが2割、コンピュータでの管理が8割。

5. 各市町村の学校図書館に関して特徴的なこと

- ・市の図書館が各校に図書の貸し出しを行っている。
- ・市の図書館が小中学生に読書通帳（500部）の配布を行っている。
※読書通帳は、読書の記録帳で、読書した本の書名、感想を自分で記入する。「満期」になったら賞品がもらえる。

6. コロナウイルス感染の対策について

<学校独自の対策>

- ・消毒液の設置
- ・マスク着用
- ・三密の回避

7. タブレット導入について

1月より全校で全生徒に一人一台のタブレットが配付され活用を開始している。

四條畷市

1. 学校図書館へ移管する具体的方策や行政からのサポートについて

現在、市内小・中学校の学校図書館には、行政から学校図書館支援員が順次配置され、昨年4月に残りの未配置校にも配置が完了し、小・中学校全校に配置されることとなった。

学校図書館支援員は、学校図書館の運営に積極的に関わっており、教員が担っていた貸し出し業務や読書指導なども行っており、特に教員が日常的になかなかできない本の整理や古い図書の廃棄、分野ごとの書架の配置など、教員は、大変助かっている。

また、子どもが興味を持って本を選択できるように本の置き方を工夫するなど、学校図書館支援員が配置された学校図書館は、見違えるようになり、大変使いやすくなっている。

さらに、学校図書館にない本や、児童・生徒が読みたいと思う本のリクエストがあるときには、学校図書館支援員が仲立ちとなって、市立図書館から貸し出しができるようにするなど、市立図書館との連携がより進んだ。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

学校図書館と市立図書館は、学校図書館に設置されているパソコンとインターネットにより繋がっており、市立図書館と離れた位置にある学校も図書館との連携がとてもスムーズになった。

3. 四條畷市の学校図書館の具体的な活動例

小学校では、学校図書館支援員が、各クラスの図書の時間に読み聞かせをしたり、読書の話を見聞かせるなど、読んでみたいと思う気持ちにさせる工夫を行っている。

4. 学校図書館の蔵書管理方法について

学校図書館に設置したパソコンで各蔵書に添付されたシールの内容（書名・作者など）を読み取り、管理できるようになっており、貸し出し状況、返却状況も瞬時に分かるようになっている。

5. 四條畷市の学校図書館に関して、特徴的なこと

上記の学校図書館支援員（二人配置で隔日交代）のうち、一人は、元市立図書館の職員で、もう一人は、元教員が担っているところがある。（複数）また、学校によっては、元保護者で司書の資格はないもののこの業務に興味・関心があって仕事を担っておられるところもある。元市立図書館の職員は、図書館業務や運営の専門家であり、一方の元教員は、小学校教員の指導力を活かして、二人の職員が互いの専門的領域を分担し、連携しながら業務を行っている。今後、本市では、このような方向で整備がされていくと思われる。

6. コロナウイルス感染の対策について

<行政の支援内容>

アルコールの消毒液や飛沫感染を防ぐシールドなどを各校に配布し、感染対策の支援を行っている。

<学校独自の対策>

消毒薬を使って、書籍の消毒を行ったり、児童・生徒に図書室に出入りする際には、手指の消毒を徹底するようにしている。

7. タブレット導入について

現在、国のGIGAスクール構想により、市内各校に順次タブレット端末が配置されてきている。まだ、学校図書館での活用までは至っていないが、今後必要に応じてそのような機会も出てくだろうと予想される。

活用についての課題は、その都度充電保管庫から出し入れをしないといけない点であり、小学校の低学年など大変時間がかかってしまうところがある。

守口市

1、各市町村の学校図書館移管する具体的方策や行政からのサポートについて

学校図書館環境のさらなる充実に向け、関係課とともに「守口市学校図書館の基本計画」を策定した。また、学校図書館支援事業として学校司書1名を各中学校区に配置している。今後、各校における学校図書館の毎日開放や児童生徒のニーズに応じたさらなる蔵書冊数の充実、データベース化、ネットワーク化等に取り組んでいく予定である。

2、学校図書館関係の組織の形態と活動について

各校に司書教諭免許を有した教員を配置するとともに、各校においては、学校長の学校運営の下、司書教諭等を中心とした分掌の中で体制を整備しているところである。

3、各市町村の学校図書館の具体的な活動例

授業において、調べ学習や読書活動等で活用し、学校司書、図書ボランティア等を活用しながら、学校図書館の環境整備、図書の貸し出しや読み聞かせ等を行っている。加えて、図書委員会の児童生徒が学校図書館の充実した運営に関わっていることも多い。

4、各学校図書館の蔵書管理方法について

一部電算化している学校もあるが、紙媒体での管理が多い。

5、守口市の学校図書館に関して、特徴的なこと

図書館司書（有償ボランティア）を各中学校区に1名配置している。（8中学校区）

今年度、守口市立図書館が開館したことで、読書活動をさらに推進し、各小中学校の図書館と市立図書館との連携を図っていきたい。

6. コロナウイルス感染の対策について

<行政の支援内容>

消毒液の各校への配布

<学校独自の対策>

学校図書館の使用前後の手洗い指導の徹底
や手指消毒の徹底

7. タブレット導入について

小中学校への設置は完了済みであり、タブレットを使った学習指導、家庭学習の指導について市教育委員会の支援を受けながら、各小中学校で取り組む予定である。その中で学校図書館におけるタブレットの活用方法についても検討していく。